

令和2年産大崎地域の 大豆作技術情報（第3号）

令和2年7月29日発行
 宮城県大崎農業改良普及センター
 TEL:0229-91-0726 FAX:0229-23-0910
<http://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/>

～栽培のポイント～

○長雨による湿害が発生しています。排水対策を徹底しましょう。

1 気象経過

- 最高・最低気温は5月6半旬～6月4半旬まで高温で推移し、7月3半旬～7月4半旬は、低温で推移しました。
- 日照時間は5月6半旬～6月4半旬まで多照でしたが、それ以降は日照不足が続いています。
- 降水量は5月6半旬から少雨で、6月11日に梅雨入りしたものの、6月4半旬から5半旬は少雨でした。7月1半旬以降は多雨となり降水日数率は80%程度となっています。

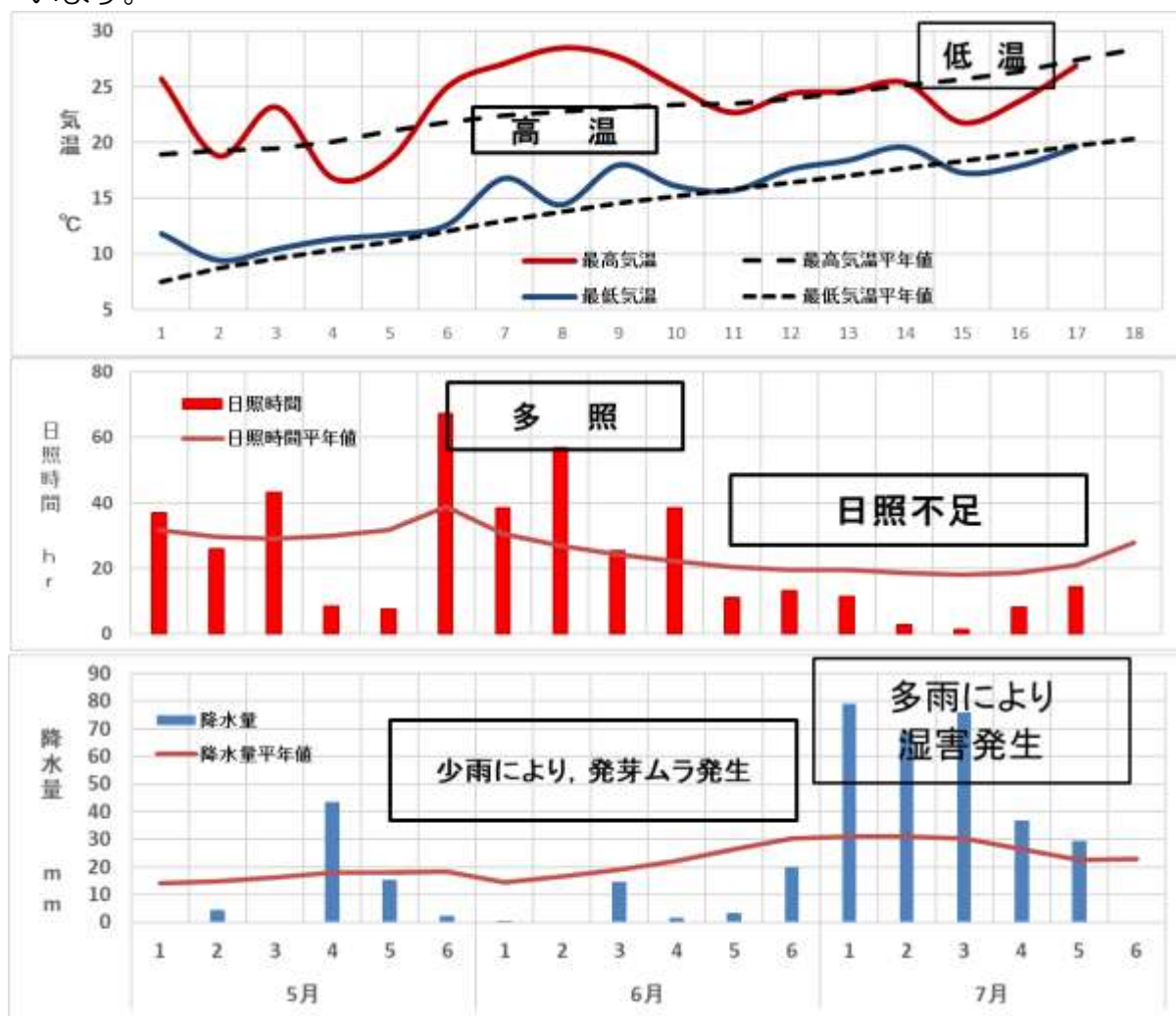


図1 5月～7月の気象

2 生育概況

播種は概ね適期に行われましたが（6/10現在83.5%の進捗）、播種前後の少雨により土壌が乾燥し、出芽は遅れ、ムラも発生しました。7月からの低温日照不足・多雨により、生育量は平年を下回りました。またほ場が乾かなかつたことで、機械作業が実施できず、雑草の発生が目立つほ場もあります。湿害により黄化してきているものも増えてきています。7月22日の生育調査結果では、主茎節数が少なく、分枝の発生は平年を大きく下回っています。

表1 生育調査ほの生育調査結果

地区名 品種名	区分	7月22日		
		莖長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
古川 タンレイ	本年	51.0	11.6	0.3
	平年比	102%	96%	15%
古川 ミヤギシロメ	本年	47.5	10.9	0.7
	平年比	106%	97%	34%
古川 きぬさやか	本年	32.0	7.4	0.4
	平年比	101%	86%	43%
小野田 タチナガハ	本年	31.5	8.1	0.1
	平年比	83%	84%	12%



※ 平年比は、前5カ年（平成27年～令和元年）の平均値との比較。

ただし、小野田タチナガハは前4カ年（平成28年～令和元年）の平均値との比較。

3 今後の栽培管理のポイント

- 明きよの補修等を行い、降雨によるほ場の停滞水を排出し、根の健全化に務める。
- 湿害からの回復を早めるため、ほ場の停滞水を排出した上で、速効性肥料を10a当たり窒素成分で3kg程度施用する。
- 機械作業可能な状況となったら、除草剤散布・中耕培土を実施する。
(除草剤については大豆作技術情報第2号を参照)

東北地方1か月予報（7月25日から8月24日までの天候見通し） 令和2年7月23日 仙台管区气象台 発表※抜粋				
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞				
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)
【気温】	東北太平洋側	40	30	30
【降水量】	東北地方	20	40	40
【日照時間】	東北太平洋側	50	30	20
＜気温経過の各階級の確率（％）＞				
		低い	平年並	高い
1週目（7/25～7/31）	東北太平洋側	60	30	10
2週目（8/1～8/7）	東北太平洋側	30	50	20
3～4週目（8/8～8/21）	東北地方	20	40	40